

## 令和4年度第1回（第54回）栗東歴史民俗博物館協議会の概要

- 開催日時 令和4年9月27日（火曜日）14時00分から15時30分まで
- 開催場所 栗東歴史民俗博物館 研修室
- 出席者  
協議会委員 西尾 悦子（会長）、月野 みつ（副会長）、  
宇野 日出生、大西 洋子、大橋 信弥、奥野 初恵、川那部 隆徳、  
國賀 由美子、澁江 善光、鈴木 元彦 の各委員（10名）
- 事務局 小山 領一（教育部次長 兼 スポーツ・文化振興課 課長  
兼 歴史民俗博物館 館長）  
木村 毅（歴史民俗博物館 副館長）  
大西 稔子（歴史民俗博物館 係長 ・ 学芸員）  
中川 敦之（歴史民俗博物館 主査 ・ 学芸員）
- 欠席者 な し
- 傍聴者 0名

### 概要

#### 1. 開 会

#### 2. 協議事項

- ①令和4年度上半期の博物館事業について
- ②令和4年度下半期の博物館事業について
- ③令和4年度第2回（第55回）栗東歴史民俗博物館協議会の日程について
- ④その他

#### 3. 閉 会

## 議事

### 1. 開 会

開会のあいさつ（西尾 悦子 会長）

開会のあいさつ（小山 領一 館長）

### 2. 協議事項

①令和4年度上半期の博物館事業について

②令和4年度下半期の博物館事業について

資料に沿って、事務局 より一括説明。

(A 委 員) 昨年度、書面決議の中でも指摘したが、歴史民俗博物館の事業だけではなく、研修室やロビーコンサートでの利用についても、実績として挙げたほうが良いのではないかと。重点目標として「市民とともに楽しみ、広く活動する博物館を目指して」と掲げている以上、委員としても知っておいたほうが良い。

(B 委 員) 実績という意味では、他の博物館への収蔵資料の貸し出しについても、挙げておいたほうが良いのではないかと。

(館 長) 他の博物館への資料の貸し出しを行っているほか、当館が他の博物館から資料を借りる場合もあり、相互協力により展覧会を行っている。  
両委員からご指摘があったことについて、今後、報告するようにしたい。

(C 委 員) 貸し館事業についても、歴史民俗博物館のホームページにアップしてはどうか。他の事業から、歴史民俗博物館そのものに関心を持ってもらうきっかけになると思う。

(事 務 局) 貸し館事業やロビーコンサートでの利用についても、これまでからアップしている。

(館 長) 歴史民俗博物館の事業については、『広報りっとう』はもちろん、マスコミにも情報を提供し、展覧会への取材も受けている。  
事業の周知の仕方については、他の博物館の取り組みについても調べ、検討する。

(A 委 員) いくつか施設の修繕を挙げているが、トイレの改修工事は、来館者の第一印象につながる部分でもあり、重要だと思う。

図書館と歴史民俗博物館が隣り合う中で、図書館には多くの来館者があるものの、歴史民俗博物館で何をしているかが分かりにくい印象があるように思う。新たな看板を設置するなど、歴史民俗博物館での催し物を分かりやすくする工夫が必要なのではないかと。

(館 長) 博物館への集客については、業界全体の課題と認識している。国立の博物館などでは大々的な発信をしているが、館の規模に応じた分かりやすい仕

掛けが必要だと感じている。

トイレの改修工事は、図書館と歴史民俗博物館の両館で行っており、来館者用トイレについては、先に図書館で行い、その後、歴史民俗博物館で行う。両館のトイレが使えない期間が生じないように、調整・協力している。

(D 委員) 博物館の業務には、展覧会以外にも資料の管理や修復がある。以前には、新規の収蔵資料や資料修復の実績についても、この協議会の場で示してもらっていたように思うが、どのような状況か。

(事務局) 資料修復については、近年、実施できていない。

新収資料については、近年、“講”関係の資料を受け入れる機会が多い。コロナ禍で、講の継続が難しくなっていることが一因ではないかと思っている。

今年度の2回目の協議会で、改めて報告したい。

(E 委員) 10月には、移築民家旧中島家住宅でのワークショップも開催される予定とのことで、楽しみにしている。

博物館教室「昔の暮らし」とは異なるが、私も、学校で子どもたちに昔の道具に触れてもらう活動をしてきたが、以前、市民から「歴史民俗博物館に農機具の寄贈を申し出たが、収蔵庫が満杯のため断られた」と伺ったことがある。

収蔵スペースの問題があることは理解できるが、今後、資料をどのように展示・活用していくのか。移築民家旧中島家住宅にもっと多くの資料を置くことはできないのか。

(事務局) 収蔵スペースにも限界があり、生産されたものでもある農機具の場合には、同じものが既に収蔵されている場合にはお断りしている。先ほどお話しした講の資料の場合には、文字資料であり、そこまで収蔵スペースをとるわけでもない。また、長年書き継がれてきた記録として貴重であるほか、「コロナ禍で多くの講が中断した」ということも、後々に振り返る上で重要となると思っている。

博物館教室「昔の暮らし」は、社会科の単元「市の様子の変り変わり」にあわせたプログラムで、収蔵する資料と用いた体験を考え、行っている。旧中島家住宅に管理人がいる日には、資料に触っていただくこともできるが、常時いるわけではないので、資料の保全、また、来場者の安全を考え、置く資料の数は限定している。

(E 委員) 有効な活用を検討していただきたい。

(F 委員) 歴史民俗博物館の開館後、多くの展覧会を見てきた。“博物館”からイメージされるのはやはり展覧会である。通史展示「栗東の歴史と民俗」(第1展示室)は良いものを多く展示しており、これは歴史民俗博物館の活動

の蓄積と言え、良いことだと思う。

一方で、第2展示室で開催される特集展示については、収蔵品を中心に構成する状況が続いており、他の博物館とのコラボレーションや巡回展など、何か違うものを見せる工夫があっても良いのではないか。

毎年取り組んでいる“小地域展”は、地域の博物館として最も有意義な活動であり、もっと多くの方にご覧いただきたい。

また、私は、スポーツ・文化振興課が策定した栗東市文化財保存活用地域計画にも委員として関わり、栗東市には取り上げるべき文化財がまだまだたくさんあると改めて感じた。歴史民俗博物館でも、この計画とリンクした活動を考えてはどうか。

(館長) 私はスポーツ・文化振興課の課長でもあり、その必要性は承知している。令和4年度に、栗東市文化財保存活用地域計画を策定できたが、これは今後の文化財の活用・展開に関する計画であり、個々の文化財の活用も含めて、歴史民俗博物館と連携したい。

また、他の博物館とのコラボレーションに関連して、他の博物館の学芸員との交流や情報交換はこれまでから行っており、コロナ禍で低調とはなっているものの、今後も続けていきたい。

(B 委員) 資料修復を行っていない理由として、予算の問題があるのではないかと推測する。博物館の活動を維持していくためには、資料修復が不可欠であり、予算の確保に努めて欲しいという思いもあるが、一方で、民間の助成金を活用するという方法もある。

補助金や助成金の活用には相応の事務手続きが必要となるが、歴史民俗博物館で展示・収蔵している資料の中は、補助金や助成金の対象となり得るものも多いように思う。市や所有者の負担軽減にもつながるので、ぜひチャレンジして欲しい。

(館長) 歴史民俗博物館の課題には、館の施設そのものの改修と、今ご指摘のあった収蔵資料の修復があると考えている。施設そのものの改修には、適用できる補助金や助成金がないのが実情であるが、収蔵資料の修復については、今ご教示いただいたような助成金が有用であり、情報収集も含めて取り組んでいきたい。

### ③令和4年度第2回(第55回)栗東歴史民俗博物館協議会の日程について

事務局より

・令和5年1月19日(木曜日)

を提示し、委員間での協議の結果、同日の午前10時開会に決定した。

#### ④その他

- A. スポーツ・文化振興課より依頼のあった「栗東文化芸術会議委員」の推薦について、西尾 悦子 会長と事務局の協議により、引き続き西尾 悦子 会長を推薦したことを報告。
- B. 年度当初の計画では休館日となっていた11月4日（金曜日、祝日の翌日）について、
- ・トイレ改修工事实施中の図書館への来館者のトイレ使用の利便性を図る
  - ・手原駅開業100周年記念展「街道から鉄道へ」（9月17日土曜日から11月6日日曜日まで）の会期末が迫り、また、手原駅開業の記念日である11月5日を翌日に控え、同記念展をより多くの方にご覧いただく機会とする
- 観点から、臨時開館日とすることを報告。
- ※B. については、9月30日（金曜日）に開催される令和4年9月度栗東市教育委員会での承認を得て正式決定となるため、公表・周知はそれ以降になる旨もあわせて報告。

#### 3. 閉 会

閉会のあいさつ（月野 みつ 副会長）